

■幅の細いルート帯の比較結果一覧

分野	項目	説明資料頁	視点	比較方法	比較結果			
					細目	Aルート帯	Bルート帯	Cルート帯
I. 交通	①交通の円滑化	P28	・地域高規格道路としての機能	大町市の主要拠点～長野自動車道までの所要時間を比較	・JR信濃大町駅～長野自動車道	・約39分⇒約26分(約13分短縮)	・約39分⇒約25分(約14分短縮)	・約39分⇒約25分(約14分短縮)
					・大町市役所～長野自動車道	・約39分⇒約24分(約15分短縮)	・約39分⇒約23分(約16分短縮)	・約39分⇒約23分(約16分短縮)
					・JR稲尾駅(木崎地区)～長野自動車道	・約48分⇒約30分(約18分短縮)	・約48分⇒約30分(約18分短縮)	・約48分⇒約29分(約19分短縮)
		P29	・交通環境の改善(市街地道路の交通量の変化)	大町市街地道路の交通量の減少数を比較	—	・約1,100[台/日]減少	・約1,300[台/日]減少	・約1,400[台/日]減少
	P31	・推計交通量	各ルート帯の推計交通量(最大区間交通量)を比較	—	・約133[百台/日] (内大型車:約33[百台/日])	・約144[百台/日] (内大型車:約32[百台/日])	・約150[百台/日] (内大型車:約34[百台/日])	
	②災害に強い道路	P32	・地震の影響(大町市揺れやすさマップ)	地震で揺れやすい地域を通過するかどうかを比較	—	・いずれのルート帯も同程度の地震による揺れやすい地域を通過する		
		P33	・地震の影響(糸魚川-静岡構造線断層帯)	糸魚川-静岡構造線断層帯による想定震度の影響を比較	—	・A・Bルート帯は、震度6強が想定される区間を一部通過するが地震の影響は概ね同等である		
		P34	・土砂災害の影響	土砂災害の恐れがある区間を通過する延長を比較	—	・いずれのルート帯も木崎湖トンネル坑口付近で、土砂災害が懸念される区域・箇所を通過するが、橋梁形式が想定されるため影響は小さい		
		P35	・浸水の影響	浸水の可能性のある区域(浸水想定区域)を通過する延長を比較	・高瀬川浸水想定区域(想定最大規模の降雨)	・いずれのルート帯も浸水想定区域を通過する延長は同等であるが、浸水しない路面高を確保する		
		P36	・災害時の代替機能	災害時のネットワーク機能を比較	—	・いずれのルート帯も緊急輸送道路(国道147号・148号)と大町市内を並走しており、緊急輸送路として等しく機能する		
③防災拠点とのアクセス性	P37	・災害時の防災拠点とのアクセス性	防災拠点(大町総合病院、大町消防署、大町市役所、大町運動公園)への所要時間を比較	・最寄りIC～防災拠点(大町総合病院、大町消防署、大町市役所、大町運動公園)	・約2.8分(平均)	・約1.5分(平均)	・約1.5分(平均)	
II. 環境	④環境の保全	P39	・住環境(大気)への影響	CO2排出量の削減幅、NOx排出量の削減幅を比較	・CO2排気量	・58[t-c/日]⇒57[t-c/日] (1[t-c/日]減少)	・58[t-c/日]⇒57[t-c/日] (1[t-c/日]減少)	・58[t-c/日]⇒56[t-c/日] (2[t-c/日]減少)
					・Nox排気量	・120[kg/日]⇒112[kg/日] (8[kg/日]減少)	・120[kg/日]⇒111[kg/日] (9[kg/日]減少)	・120[kg/日]⇒109[kg/日] (11[kg/日]減少)
		P40	・住環境(騒音)への影響	騒音の基準が定められている地域の通過延長の合計で、住環境の騒音を比較	・通過延長(A地域・B地域・C地域)の合計	・約41m	・約784m	・約1,666m
		P41	・住環境(振動)への影響	振動の基準が定められている区域の通過延長の合計で、住環境の振動を比較	・通過延長(第1種区域・第2種区域)の合計	・約41m	・約784m	・約1,666m
		P42	・自然環境への影響(植生自然度)	植生自然度が高い区域(7以上)を通過する延長で比較	・植生自然度7以上の区域	・約602m	・約521m	・約521m
		P43	・自然環境への影響(鳥獣保護区)	特定猟具使用禁止区域(銃猟)を通過する延長で比較	・特定猟具使用禁止区域(銃猟)	・いずれのルート帯も、特定猟具使用禁止区域(銃猟)を通過しない		
	・自然環境への影響(天然記念物)		指定天然記念物を通過する箇所数で比較	・天然記念物の干渉箇所	・いずれのルート帯も、天然記念物とは干渉しない			
	⑤景観・文化財の保全	P45-63	・人目線からの眺望	各ルート帯における主要な箇所からの写真に完成予想図を当てはめ、道路の見え方を比較	—	・各ルート帯における主要な箇所からの完成予想図(フォトモンタージュ)により見え方を確認		
P64		・指定文化財等への影響(埋蔵文化財包蔵地)	埋蔵文化財包蔵地の通過面積を比較	—	・指定文化財等への影響は、いずれのルート帯も約0.24haで同等である			
III. 土地利用・市街地整備	⑥土地利用への影響	P66	・地域への影響	各ルート帯が通過する自治会の箇所数を比較	—	・7箇所	・9箇所	・10箇所
					P67	・住宅地・商業地・工業地への影響	各ルート帯に占める住宅地・商業地・工業地の面積および戸数で土地利用への影響を比較	・住宅地、商業地、工業地の面積の合計
		P68	・農地への影響	各ルート帯が農振農用地を通過する延長と面積を比較	・農振農用地の通過延長	・約6.5km	・約6.1km	・約4.9km
					・農振農用地の通過面積	・約54.4ha	・約50.1ha	・約37.5ha
	不整形となる可能性のある農振農用地の区画数を比較	—	・約350区画	・約340区画	・約300区画			
	⑦安全な暮らしの確保	P70	・交通環境の改善(交通事故件数の変化)	現況と将来(各ルート帯が整備された場合)の事故件数の増減数を比較	・事故件数合計値	・88件⇒59件(29件減少)	・88件⇒53件(35件減少)	・88件⇒50件(38件減少)
					・稲尾駅～北アルプス医療センターあづみ病院	・約28分⇒約18分(約10分短縮)	・約28分⇒約19分(約9分短縮)	・約28分⇒約18分(約10分短縮)
		P72	・高次救急医療機関への到達性	救急医療機関へのアクセス性を比較	・大町総合病院～県立子ども病院	・約42分⇒約35分(約7分短縮)	・約42分⇒約34分(約8分短縮)	・約42分⇒約34分(約8分短縮)
					・大町総合病院～信州大学医学部附属病院	・約58分⇒約46分(約12分短縮)	・約58分⇒約45分(約13分短縮)	・約58分⇒約45分(約13分短縮)

分野	項目	説明資料頁	視点	比較方法	比較結果			
					細目	Aルート帯	Bルート帯	Cルート帯
IV. 社会・地域経済	⑧まちづくりとの連携性	P75	・市街地環境への影響	各ルート帯の整備の有無による市街地路線の大型車交通量の変化を比較	・総交通量(大型車)	・2,461台[台/日]→1,428[台/日] ・信濃大町停車場線 1,291[台/日]→692[台/日] ・国道147号/148号 1,170[台/日]→736[台/日]	・2,461台[台/日]→1,281[台/日] ・信濃大町停車場線 1,291[台/日]→688[台/日] ・国道147号/148号 1,170[台/日]→593[台/日]	・2,461台[台/日]→1,264[台/日] ・信濃大町停車場線 1,291[台/日]→681[台/日] ・国道147号/148号 1,170[台/日]→583[台/日]
					P76	都市機能誘導区域とのアクセス性を比較	・最寄りIC～信濃大町駅	・約5分
		・最寄りIC～誘導施設平均値	・約4分	・約3分			・約3分	
		・最寄りIC～都市機能誘導区域の重心	・約3分	・約2分			・約2分	
		P77	・大町市のまちづくり施策との連携・適合性	居住誘導区域とのアクセス性を比較	・最寄りIC～北大町駅	・約5分	・約5分	・約4分
					・最寄りIC～南大町駅	・約3分	・約3分	・約3分
					・最寄りIC～誘導施設平均値	・約4分	・約3分	・約3分
					・最寄りIC～居住誘導区域の重心	・約4分	・約3分	・約3分
	P78	都市構造としての一体性(ラダー構造)を比較	—	・都市構造としてラダー構造を形成	・都市構造としてラダー構造を形成	・都市構造としてラダー構造を形成		
	⑨市民の利便性	P79	・東部地域とのアクセス性	東部地域の代表地点として、美麻支所・八坂支所とのアクセス性を所要時間で比較	・最寄りIC～美麻支所	・約15分	・約15分	・約15分
					・最寄りIC～八坂支所	・約15分	・約14分	・約14分
	P80	・市民のアクセス性	大町市から高速交通網へのアクセス性の向上を10分圏域人口カバー率で比較	・松本糸魚川連絡道路の10分圏域人口カバー率	・市全体:93%	・市全体:94%	・市全体:94%	
	⑩地域の活性化	P81	・物流の効率化	物流施設までのアクセス性を最寄りのICからの所要時間で比較	・最寄りIC～レゾナック・グラファイト・ジャパン(旧昭和電工大町工場)	・約3分	・約3分	・約3分
					・最寄りIC～アルプスウォーター 大町工場	・約5分	・約5分	・約5分
・最寄りIC～ホクト 大町きのこセンター					・約3分	・約2分	・約2分	
・最寄りIC～信越電装 リビルト工場					・約4分	・約4分	・約4分	
・最寄りIC～劇団四季 記念館					・約6分	・約6分	・約7分	
P83		・観光拠点(大町温泉郷、葛温泉)とのアクセス性	観光拠点へのアクセス性を最寄りICからの所要時間で比較	・最寄りIC～大町温泉郷	・約4分	・約4分	・約4分	
				・最寄りIC～葛温泉	・約20分	・約20分	・約20分	
V. 事業性	⑪経済性	P86	・事業費 ・維持管理費	概算事業費(工事費・用地補償費・事業費合計・維持管理費)を比較	・工事費	・約175(億円)	・約180(億円)	・約170(億円)
					・用地補償費	・約85(億円)	・約90(億円)	・約100(億円)
					・事業費合計	・約260(億円)	・約270(億円)	・約270(億円)
					・維持管理費(億円/年)	・約0.86(億円/年)	・約0.87(億円/年)	・約0.83(億円/年)
	⑫施工性	P87	・現道への影響	各ルート帯が現道と交差する箇所数で、現道への影響を比較	・幅員5.5m以上の道路との交差箇所数	・9箇所	・9箇所	・8箇所
					・うち 主要道路との交差箇所数	・5箇所	・5箇所	・5箇所
		P88	・JR、河川に対する橋梁	ルートの施工にあたって必要となる、JRおよび河川を跨ぐ橋梁の箇所数と延長を比較	・JR跨線橋延長、箇所数	・約340m、2箇所	・約340m、2箇所	・約340m、2箇所
					・渡河延長、箇所数	・約460m、1箇所	・約330m、1箇所	・約330m、1箇所
⑬効果の早期発現	P89	・段階的な供用の実現性	事業効果の早期発現のため、段階的な供用の実現性を比較	—	・全てのルート帯で段階的な供用が可能			